

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 9335-2-64:2024

規格名：家庭用及びこれに類する電気機器の安全性－第 2-64 部：モータ駆動の業務用ちゅう（厨）房機器の個別要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条項	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
第 二 条 第 1 項	安全原則	電気用品は、通常の使用状態において、人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないよう設計されるものとする。	■該当 □非該当	箇条 4	箇条4 一般要求事項（JIS C 9335-1（以下、第1部）の規定による。） 機器は、通常使用時に起こりやすい不注意があっても、人体及び／又は周囲に危害をもたらさないように安全に機能する構造でなければならない。	
第 二 条 第 2 項	安全原則	電気用品は、当該電気用品の安全性を確保するために、形状が正しく設計され、組立てが良好で、かつ、動作が円滑であるものとする。	■該当 □非該当	箇条20 20.2 20.101 20.102 20.105 20.106 20.112	第1部の第二条第2項に該当する規定によるほか、次による。 箇条20 安定性及び機械的危険 20.2 機器の動作範囲内の危険ゾーンを保護するカバーなどは、危険にならない場合にだけ、着脱可能なものでなければならない。 20.101 解除すると危険が生じる可能性がある固定装置は、偶発的に解除されない構造でなければならない。 20.102 取付け可能な附属品などの機能部品の取付装置は、意図せずに緩んではならない。 20.105 スイッチは、使用者の手が容易に届く範囲内に配置しなければならない。 20.106 スライド送りテーブル、調理物ホルダ、ストッププレート（ゲージプレート）及びこれらと類似の装置は、動作範囲内で安全に動作しなければならない。 20.112 機器は、着脱可能な部分を取り付けなくても又は	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 9335-2-64:2024

規格名：家庭用及びこれに類する電気機器の安全性－第 2-64 部：モータ駆動の業務用ちゅう（厨）房機器の個別要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条項	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				箇条22	間違った位置に取り付けても、危険が生じない構造でなければならない。	
				22.103	箇条22 構造 22.103 排水コック及びこれと類似の高温液体用の排出装置は、それらが不用意に開くおそれがない構造でなければならない。	
				22.105	22.105 電源を必要とする附属品は、機器からその電源を引き出せなければならない。	
				22.106	22.106 機器は潤滑剤、研磨剤及びこれらと類似のものが、食材と接触するおそれがない構造でなければならない。	
				22.109	22.109 機器は、食品又は液体が電氣的故障又は機械的故障を引き起こすおそれのある場所に侵入するのを防止する構造でなければならない。	
				箇条25	箇条25 電源接続及び外部可とうコード	
				25.1	25.1 固定配線に恒久的に接続することを意図した機器以外の機器は、次のいずれかの電源への接続手段をもっていなければならない。 － 差込プラグ付きの電源コード － コンセントに直接差し込むピン	
				25.3	25.3 ローラ若しくはキャスタ又はこれらと類似の手段を備えておらず、固定配線に恒久的に接続することを意図	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 9335-2-64:2024

規格名：家庭用及びこれに類する電気機器の安全性－第 2-64 部：モータ駆動の業務用ちゅう（厨）房機器の個別要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条項	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
					し、質量が40 kgを超える機器は、製造業者の据付説明書に従って設置した後に、電源コードが接続可能な構造でなければならない。	
第 三 条 第 1 項	安全機能を有する設計等	電気用品は、前条の原則を踏まえ、危険な状態の発生を防止するとともに、発生時における被害を軽減する安全機能を有するよう設計されるものとする。	■該当 □非該当	箇条20 20.110 20.114 箇条22 22.101 22.113	第1部の第三条第1項に該当する規定によるほか、次による。 箇条20 安定性及び機械的危険 20.110 運動エネルギーが200 Jを超える回転ドラムをもつ食品洗浄機及び食品乾燥機は、カバーが開いた状態のときには機器が始動しないインタロック付きカバーを備えなければならない。 20.114 ビーンミキサは、手によって電源を入れた状態に維持するスイッチをもたない場合、ヘッドが支持面から規定の値より高く持ち上げられたとき、自動的に電源が遮断されなければならない。 箇条22 構造 22.101 多相機器の場合、温度過昇防止装置は、電源から全極遮断するものでなければならない。 単相機器の場合、温度過昇防止装置は、1極以上を遮断するものでなければならない。 22.113 車輪又はこれと類似の手段を取り付けた機器は、機器が静止している間、それをロックするための有効な	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 9335-2-64:2024

規格名：家庭用及びこれに類する電気機器の安全性－第 2-64 部：モータ駆動の業務用ちゅう（厨）房機器の個別要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条項	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
					手段を備えなければならない。	
第 三 条 第 2 項	安全機能を有する設計等	電気用品は、前項の規定による措置のみによってはその安全性の確保が困難であると認められるときは、当該電気用品の安全性を確保するために必要な情報及び使用上の注意について、当該電気用品又はこれに付属する取扱説明書等への表示又は記載がされるものとする。	■該当 □非該当	箇条7 7.12	第1部の第三条第2項に該当する規定によるほか、次による。 箇条7 表示、及び取扱説明又は据付説明 7.12 取扱説明書には、誤使用に対する警告、及び清掃のため切刃を扱うときには注意する旨を記載しなければならない。 手持形のブレンダ及び泡立て機の取扱説明書には、これらの機器が調理物と接触しないときの使用に対する警告を記載しなければならない。 フードプロセッサの取扱説明書には、切刃を取り扱うとき、特に刃をボウルから外すとき、ボウルを空にするとき及び清掃中は、注意が必要である旨を記載しなければならない。 スライス機の取扱説明書には、刃の組立て及び取外しに関する詳細、並びにその刃を機器に取り付けた状態で刃を清掃するときはスライス厚さ調節プレート又はガードプレートをゼロ位置に設定する旨を記載しなければならない。 取扱説明書には、機器に用いるのに適した外付けの研ぎ装置の識別、及びその研ぎ器だけを用いる旨を記載しな	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 9335-2-64:2024

規格名：家庭用及びこれに類する電気機器の安全性－第 2-64 部：モータ駆動の業務用ちゅう（厨）房機器の個別要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条項	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				7.102 箇条25 25.3	なければならない。 7.102 手で給水又は手動の水栓で給水する容器は、指示レベルを表示しなければならない。 箇条25 電源接続及び外部可とうコード 25.3 X形取付けを使用する機器の取扱説明書には、使用する電源コードの寸法及び種類を記載しなければならない。	
第 四 条	供用期間中における安全機能の維持	電気用品は、当該電気用品に通常想定される供用期間中、安全機能が維持される構造であるものとする。	■該当 □非該当	箇条23 23.3 箇条28 28.4	第1部の第四条に該当する規定によるほか、次による。 箇条23 内部配線 23.3 自動温度調節器のキャピラリチューブが、通常使用時に屈曲を受ける可能性がある場合には、屈曲試験後、キャピラリチューブは、この規格で許容しない損傷の兆候及びその後の使用を妨げる損傷があつてはならない。 箇条28 ねじ及び接続 28.4 機械的接続及び電氣的接続を行うねじは、操作上の応力及び接触部の腐食によるねじ組立部の緩みによって、接触圧力が明らかなほど変化しないような構造でなければならない。	
第 五 条	使用者及び使用場所を考慮した安全設計	電気用品は、想定される使用者及び使用される場所を考慮し、人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように	■該当 □非該当	箇条6 6.1	第1部の第五条に該当する規定によるほか、次による。 箇条6 分類 6.1 手持形機器は、感電に対する保護に関し、クラスⅡ又	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 9335-2-64:2024

規格名：家庭用及びこれに類する電気機器の安全性－第 2-64 部：モータ駆動の業務用ちゅう（厨）房機器の個別要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条項	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
		設計され、及び必要に応じて適切な表示をされているものとする。		6.2	はクラスⅢのいずれかでなければならない。 手持形機器以外の機器は、感電に対する保護に関し、クラス0Ⅰ、クラスⅠ、クラスⅡ又はクラスⅢのいずれかでなければならない。 6.2 機器の水の有害な浸入に対する保護等級は、IPX1以上でなければならない。	
第 六 条	耐熱性等を有する部品及び材料の使用	電気用品には、当該電気用品に通常想定される使用環境に応じた適切な耐熱性、絶縁性等を有する部品及び材料が使用されるものとする。	■該当 □非該当	箇条25 25.7 箇条28 28.1	第1部の第六条に該当する規定によるほか、次による。 箇条25 電源接続及び外部可とうコード 25.7 電源コードは、次のいずれかのタイプでなければならない。 ー オーディナリークロロプレン又はその他の合成エラストマーシース付きコードと同等以上の特性をもつ耐油性の可とう被覆ケーブル ー 絶縁体又は外装に、クロロプレンゴム混合物又はクロロスルホン化ポリエチレンゴム混合物を用いたキャブタイヤケーブル 箇条28 ねじ及び接続 28.1 炭素鋼製及び合金鋼製のねじ並びに耐食ステンレス鋼製のねじは、該当する規格に適合しなければならない。	
第 七 条 第 1 号	感電に対する保護	電気用品には、使用場所の状況及び電圧に応じ、感電のおそれがないように、次に掲げ	■該当 □非該当		第1部の第七条第1号に該当する規定によるほか、次による。	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 9335-2-64:2024

規格名：家庭用及びこれに類する電気機器の安全性－第 2-64 部：モータ駆動の業務用ちゅう（厨）房機器の個別要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条項	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
		る措置が講じられるものとする。 一 危険な充電部への人の接触を防ぐとともに、必要に応じて、接近に対しても適切に保護すること。		箇条22 22.107	箇条22 構造 22.107 可搬形機器は、小さな物体が侵入して充電部に接触するような底面の開口部があってはならない。	
第 七 条 第 2 号	感電に対する 保護	二 接触電流は、人体に影響を及ぼさないように抑制されていること。	■該当 □非該当	箇条13 13.2 箇条16 16.2 箇条27 27.2	第1部の第七条第2号に該当する規定によるほか、次による。 箇条13 動作温度での漏えい電流及び耐電圧 13.2 規定する時間機器を運転した後、漏えい電流は、規定の値以下でなければならない。 箇条16 漏えい電流及び耐電圧 16.2 規定の試験電圧を加えた後、漏えい電流は、規定の値を超えてはならない。 箇条27 接地の手段 27.2 据置形機器で、外部等電位ボンディング導体を接続するための端子を備えている場合には、その端子は、機器の全ての固定した露出金属部分と有効な電氣的接触をしていなければならない。	
第 八 条	絶縁性能の保持	電気用品は、通常の使用状態において受けるおそれがある内外からの作用を考慮し、かつ、使用場所の状況に応じ、絶縁性能が保たれるものとする。	■該当 □非該当	箇条15 15.101	第1部の第八条に該当する規定によるほか、次による。 箇条15 耐湿性等 15.101 給水又は清掃のために水栓を備えている機器は、水栓からの水が充電部に接触しない構造でなければなら	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 9335-2-64:2024

規格名：家庭用及びこれに類する電気機器の安全性－第 2-64 部：モータ駆動の業務用ちゅう（厨）房機器の個別要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条項	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				箇条22 22.104 箇条29 29.2	ない。 箇条22 構造 22.104 機器から液体を排出するための手段は、電気絶縁に悪影響を及ぼさない方法で液体を放出することが可能でなければならない。 箇条29 空間距離、沿面距離及び固体絶縁 29.2 機器が通常使用中に絶縁物によって囲われていないため、又は絶縁物を設置していないため、汚染にさらされる可能性がある場合には、マイクロ環境は汚損度3であって、その絶縁物の比較トラッキング指数（CTI）は規定の値以上でなければならない。	
第 九 条	火災の危険源からの保護	電気用品には、発火によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように、発火する温度に達しない構造の採用、難燃性の部品及び材料の使用その他の措置が講じられるものとする。	☒ 該当 ☐ 非該当	箇条11 11.1 箇条19 19.1 箇条30 30.2	箇条11 温度上昇 11.1 機器及びその周囲は、通常使用状態において過度の温度になってはならない。（第1部の規定による。） 箇条19 異常下における動作 19.1 機器は、異常下における動作又は不注意による動作によって、火災の危険に対する保護に影響を及ぼす機械的損傷を、可能な限り未然に防止可能な構造でなければならない。（第1部の規定による。） 箇条30 耐熱性及び耐火性 30.2 非金属製の部分は、十分な耐着火性及び耐延焼性を	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 9335-2-64:2024

規格名：家庭用及びこれに類する電気機器の安全性－第 2-64 部：モータ駆動の業務用ちゅう（厨）房機器の個別要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条項	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
					もっていなければならない。（第1部の規定による。）	
第 十 条	火傷の防止	電気用品には、通常の使用状態において、人体に危害を及ぼすおそれがある温度とならないこと、発熱部が容易に露出しないこと等の火傷を防止するための設計その他の措置が講じられるものとする。	■該当 □非該当	箇条11 11.1 箇条22 22.13	箇条11 温度上昇 11.1 機器及びその周囲は、通常使用状態において過度の温度になってはならない。（第1部の規定による。） 箇条22 構造 22.13 通常使用状態でハンドルをつかんだときに、通常使用時に短時間だけ保持するハンドルについての規定値を超える温度上昇部分が操作者の手に接触しないような構造でなければならない。（第1部の規定による。）	
第 十 一 条 第 1 項	機械的危険源による危害の防止	電気用品には、それ自体が有する不安定性による転倒、可動部又は鋭利な角への接触等によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように、適切な設計その他の措置が講じられるものとする。	■該当 □非該当	箇条20 20.102 20.103	第1部の第十一条1項に該当する規定によるほか、次による。 箇条20 安定性及び機械的危険 20.102 危険になる可能性がある被駆動軸は、動作範囲内を除き、偶発的な接触に対して適切に保護しなければならない。 20.103 通常使用時に傾斜するような構造の機器又は機器の部分は、危険を生じてはならない。電源が遮断された場合でも、全ての位置からの偶発的な傾斜を防止しなければならず、機器の部分が完全に傾いたとき、緩衝位置を除いて、傾斜した部分と機器との間に危険な圧碎ゾーンがあってはならない。	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 9335-2-64:2024

規格名：家庭用及びこれに類する電気機器の安全性－第 2-64 部：モータ駆動の業務用ちゅう（厨）房機器の個別要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条項	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				20.107	20.107 取付け可能な附属品を取り付けないと動作させることが不可能な場合を除き、取付け可能な附属品とかみ合う被駆動軸の装置は、偶発的な接触を防止しなければならない。	
				20.108	20.108 丸のこは、加工物をセットすることによって、必要ときに限り動作範囲のカバーが開き、運転サイクルが終了すると自動的に動作範囲が再び覆われるカバーを備えなければならない。	
				20.109	20.109 手持形ブレンダの刃は、上部からは完全に遮蔽し、かつ、回転中は平らな面に接触することが可能であってはならない。	
				20.111	20.111 カバー又は蓋を開けたとき可触となる危険な運動部分は、カバー又は蓋を開けてから又は外してから2秒間以内に停止しなければならない。	
				20.113	20.113 手持形泡立て機は、誤って手が工具部に滑り込むことを防止するためのガードを備えなければならない。	
				20.115	20.115 皮むき機から調理物を取り出すとき、危険のおそれがあってはならない。	
				20.116	20.116 スライス機は、使用中、安定していなければならない。	
				20.117	20.117 スライス機の刃は、適切に保護しなければならない。	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 9335-2-64:2024

規格名：家庭用及びこれに類する電気機器の安全性－第 2-64 部：モータ駆動の業務用ちゅう（厨）房機器の個別要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条項	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				20.119	い。 20.119 帯形の骨切のこの危険な運動部分は、適切に保護しなければならない。	
第 十 一 条 第 2 項	機械的危険源による危害の防止	2 電気用品には、通常起こり得る外部からの機械的作用によって生じる危険源によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように、必要な強度を持つ設計その他の措置が講じられるものとする。	■該当 □非該当	箇条21 21.101	第1部の第十一条第2項に該当する規定によるほか、次による。 箇条21 機械的強度 21.101 機械的危険に対する保護に必要な、着脱可能な部分及び着脱できない部分は、ひずみに対して適切な抵抗性をもたなければならない。	
第 十 二 条	化学的危険源による危害又は損傷の防止	電気用品は、当該電気用品に含まれる化学物質が流出し、又は溶出することにより、人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないものとする。	■該当 □非該当	箇条19 19.13 箇条22 22.22 22.23 22.41 箇条32 32.1	箇条19 異常下における動作 19.13 試験中に、危険な量の有毒性のガスが機器から漏れてはならない。（第1部の規定による。） 箇条22 構造 22.22 機器は、アスベストを含んではならない。（第1部の規定による。） 22.23 機器には、ポリ塩化ビフェニル（PCB）を含んだ油を用いてはならない。（第1部の規定による。） 22.41 機器は、ランプを除き、水銀を含む部品を組み込んではならない。（第1部の規定による。） 箇条32 放射、毒性及びこれらと類似の危険性 32.1 機器は、通常使用中の動作による毒性その他これに	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 9335-2-64:2024

規格名：家庭用及びこれに類する電気機器の安全性－第 2-64 部：モータ駆動の業務用ちゅう（厨）房機器の個別要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条項	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
					類する危険があつてはならない。（第1部の規定による。）	
第 十 三 条	電気用品から 発せられる電 磁波による危 害の防止	電気用品は、人体に危害を及ぼすおそれのある電磁波が、外部に発生しないように措置されているものとする。	■該当 □非該当	箇条32 32.1 32.2	箇条32 放射、毒性及びこれらと類似の危険性 32.1 機器は、有害な放射を発生してはならない。（第1部の規定による。） 32.2 機器は、通常使用での動作によって、光放射による危険を引き起こしてはならない。（第1部の規定による。）	
第 十 四 条	使用方法を考 慮した安全設 計	電気用品は、当該電気用品に通常想定される無監視状態での運転においても、人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように設計され、及び必要に応じて適切な表示をされているものとする。	■該当 □非該当	箇条19 19.1 箇条22 22.40 22.49 22.50	箇条19 異常下における動作 19.1 機器は、異常下における動作又は不注意による動作によって、火災の危険、及び安全性又は感電に対する保護に影響を及ぼす機械的損傷を、可能な限り未然に防止可能な構造でなければならない。（第1部の規定による。） 箇条22 構造 22.40 遠隔操作の機器には、機器の動作を停止させるためのスイッチを取り付けなければならない。（第1部の規定による。） 22.49 遠隔操作の場合、運転持続時間を設定しない限り、機器が始動できないようにしなければならない。（第1部の規定による。） 22.50 機器内に組み込んだ制御装置がある場合、それが遠隔操作によって操作される制御装置よりも優先される構造でなければならない。（第1部の規定による。）	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 9335-2-64:2024

規格名：家庭用及びこれに類する電気機器の安全性－第 2-64 部：モータ駆動の業務用ちゅう（厨）房機器の個別要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条項	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				22.51	22.51 機器上には、機器が遠隔操作用に調節されていることを示す視覚的表示がなければならない。（第1部の規定による。）	
				22.62	22.62 公衆のネットワークを介した遠隔通信は、この規格への適合を損なってはならない。（第1部の規定による。）	
第十五条 第 1 項	始動、再始動及び停止による危害の防止	電気用品は、不意な始動によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないものとする。	■該当 □非該当	箇条9 9.101 箇条20 20.105 箇条22 22.112	第1部の第十五条第1項に該当する規定によるほか、次による。 箇条9 モータ駆動機器の始動 9.101 機器に組み込まれたモータは、始動が遅延すると危険が生じる可能性がある場合、3秒間以内に始動しなければならない。 箇条20 安定性及び機械的危険 20.105 始動スイッチは、偶発的な操作によって危険が生じる可能性がある場合、偶発的に操作できないように保護しなければならない。 箇条22 構造 22.112 始動及び停止機能のための一つのデバイス又は個別のデバイスをもつ機器の場合、停止機能は、常に、始動機能に優先しなければならない。	
第十五条 第 2 項	始動、再始動及び停止による	電気用品は、動作が中断し、又は停止したときは、再始動によって人体に危害を及ぼし、	■該当 □非該当		第1部の第十五条第2項に該当する規定によるほか、次による。	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 9335-2-64:2024

規格名：家庭用及びこれに類する電気機器の安全性－第 2-64 部：モータ駆動の業務用ちゅう（厨）房機器の個別要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条項	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
	る危害の防止	又は物件に損傷を与えるおそれがないものとする。		箇条20 20.111 箇条22 22.101 22.111 22.112	箇条20 安定性及び機械的危険 20.111 機器は、再びカバー又は蓋を閉めたとき、危険を生じる可能性がない場合を除き、自動的に再始動が可能であってはならない。 箇条22 構造 22.101 偶発的に始動することが危険を引き起こす可能性があるモータの温度過昇防止装置は、非自己復帰形のトリップフリーのものでなければならない。 22.111 機器は、再始動によって運動部分による機械的危険、高温部分又は高温の液体による温度的危険などの危険を生じる可能性がある場合、一時的に遮断した後に電源を再接続するときに、自動的に再始動してはならない。 22.112 始動及び停止機能のための一つのデバイス又は個別のデバイスをもつ機器の場合、停止機能は、常に、始動機能に優先しなければならない。	
第十五条 第 3 項	始動、再始動及び停止による危害の防止	電気用品は、不意な動作の停止によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないものとする。	☒ 該当 ☐ 非該当	箇条9 9.101	第1部の第十五条第3項に該当する規定によるほか、次による。 箇条9 モータ駆動機器の始動 9.101 冷却ファンのモータは、使用時に発生する可能性がある全ての電圧状態の下で始動しなければならない。	
第十六条	保護協調及び	電気用品は、当該電気用品を接続する配電	☒ 該当	箇条10	箇条10 入力及び電流	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 9335-2-64:2024

規格名：家庭用及びこれに類する電気機器の安全性－第 2-64 部：モータ駆動の業務用ちゅう（厨）房機器の個別要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条項	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
	組合せ	系統や組み合わせる他の電気用品を考慮し、異常な電流に対する安全装置が確実に作動するよう安全装置の作動特性を設定するとともに、安全装置が作動するまでの間、回路が異常な電流に耐えることができるものとする。	□非該当	10.2 箇条19 19.1 19.11 箇条25 25.8	10.2 機器に定格電流が表示されている場合、通常動作温度における電流は、定格電流から、規定の許容値を超える差があってはならない。（第1部の規定による。） 箇条19 異常下における動作 19.1 機器は、異常下における動作又は不注意による動作によって、火災の危険、及び安全性又は感電に対する保護に影響を及ぼす機械的損傷を、可能な限り未然に防止可能な構造でなければならない。（第1部の規定による。） 19.11 ヒューズを作動させることによって、故障状態の下での機器の安全性を確保する場合は、規定の試験に適合しなければならない。（第1部の規定による。） 箇条25 電源接続及び外部可とうコード 25.8 規定の規格に適合するコード又はキャブタイヤケーブル以外の電源コードの導体は、規定の値以上の公称断面積をもつものでなければならない。（第1部の規定による。）	
第 十 七 条	電磁的妨害に対する耐性	電気用品は、電氣的、磁氣的又は電磁的の妨害により、安全機能に障害が生じることを防止する構造であるものとする。	■該当 □非該当	箇条19 19.1 19.11.4	箇条19 異常下における動作 19.1 電子回路は、故障状態になっても、機器が感電、火災、傷害又は危険な誤動作を起こさないように設計し、使用しなければならない。（第1部の規定による。） 19.11.4 保護電子回路を組み込んでいる機器は、イミューニ	

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 9335-2-64:2024

規格名：家庭用及びこれに類する電気機器の安全性－第 2-64 部：モータ駆動の業務用ちゅう（厨）房機器の個別要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条項	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
				19.13	ティ試験に適合しなければならない。（第1部の規定による。） 19.13 機器は、危険な誤動作を起こしてはならず、また、機器が動作可能である場合、保護電子回路の故障があつてはならない。（第1部の規定による。）	
第 十 八 条	雑音の強さ	電気用品は、通常の使用状態において、放送受信及び電気通信の機能に障害を及ぼす雑音を発生するおそれがないものとする。	☒ 該当 ☐ 非該当	—	—	J55014-1 等の別規格で規定されている。
第 十 九 条	表示等（一般）	電気用品は、安全上必要な情報及び使用上の注意（家庭用品品質表示法（昭和三十七年法律第百四号）によるものを除く。）を、見やすい箇所に容易に消えない方法で表示されるものとする。	☒ 該当 ☐ 非該当	箇条22 22.102	第1部の第十九条に該当する規定によるほか、次による。 箇条22 構造 22.102 危険、警告又はこれらと類似の状況を示すための表示灯、スイッチ又は押しボタンの色は、赤でなければならない。	
第 二 十 条 第 1 号	表示等（長期使用製品安全表示制度による表示）	次の各号に掲げる製品の表示は、前条の規定によるほか、当該各号に定めるところによる。 一 扇風機及び換気扇（産業用のもの又は電気乾燥機（電熱装置を有する浴室用のものに限り、毛髪乾燥機を除く。）の機能を兼ねる換気扇を除く。） 機器本体の見やすい箇所に、明瞭に判読でき、かつ、容易に消え	☐ 該当 ☒ 非該当	—	—	扇風機及び換気扇は、当該規格の適用範囲に含まれないため、非該当が妥当と考える。

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 9335-2-64:2024

規格名：家庭用及びこれに類する電気機器の安全性－第 2-64 部：モータ駆動の業務用ちゅう（厨）房機器の個別要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条項	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
		ない方法で、次に掲げる事項を表示すること。 (イ) 製造年 (ロ) 設計上の標準使用期間（消費生活用製品安全法（昭和四十八年法律第三十一号）第三十二条の三第一項第一号に規定する設計標準使用期間をいう。以下同じ。） (ハ) 設計上の標準使用期間を超えて使用すると、経年劣化による発火、けが等の事故に至るおそれがある旨。				
第二十条 第 2 号	表示等（長期使用製品安全表示制度による表示）	二 電気冷房機（産業用のものを除く。）機器本体の見やすい箇所に、明瞭に判読でき、かつ、容易に消えない方法で、次に掲げる事項を表示すること。 (イ) 製造年 (ロ) 設計上の標準使用期間 (ハ) 設計上の標準使用期間を超えて使用すると、経年劣化による発火、けが等の事故に至るおそれがある旨。	☐ 該当 ☒ 非該当	—	—	電気冷房機は、当該規格の適用範囲に含まれないため、非該当が妥当と考える。
第二十条 第 3 号	表示等（長期使用製品安全	三 電気洗濯機（産業用のもの及び乾燥装置を有するものを除く。）及び電気脱水機	☐ 該当 ☒ 非該当	—	—	電気洗濯機及び電気脱水機は、

技術基準との整合確認書

規格番号：JIS C 9335-2-64:2024

規格名：家庭用及びこれに類する電気機器の安全性－第 2-64 部：モータ駆動の業務用ちゅう（厨）房機器の個別要求事項

技術基準			該当	規格		補足
条項	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
	表示制度による表示)	（電気洗濯機と一体となっているものに限 り、産業用のものを除く。） 機器本体の見 やすい箇所に、明瞭に判読でき、かつ、容易 に消えない方法で、次に掲げる事項を表示 すること。 (イ) 製造年 (ロ) 設計上の標準使用期間 (ハ) 設計上の標準使用期間を超えて使用 すると、経年劣化による発火、けが等の事故 に至るおそれがある旨。				当該規格の適用 範囲に含まれな いため、非該当 が妥当と考える。
第 二 十 条 第 4 号	表示等（長期 使用製品安全 表示制度による表示)	四 テレビジョン受信機（ブラウン管のも のに限り、産業用のものを除く。） 機器本 体の見やすい箇所に、明瞭に判読でき、か つ、容易に消えない方法で、次に掲げる事項 を表示すること。 (イ) 製造年 (ロ) 設計上の標準使用期間 (ハ) 設計上の標準使用期間を超えて使用 すると、経年劣化による発火、けが等の事故 に至るおそれがある旨。	☐ 該当 ☒ 非該当	—	—	テレビジョン受 信機は、当該規 格の適用範囲に 含まれないた め、非該当が妥 当と考える。－